

子どもたちの安全・安心のためにやっているパトロール活動を通じて得られた情報を発信する学期ごとの通信誌です
 — 保護者の方にお読みいただき、子どもたちへお伝えいただきたい内容です —

中岡交差点と金子武男さん ～遺された看板はいつまでも交通安全を願っている～

私が鵜洋小学校に通学していた時、そして長女と次女が通学していた5年前までの35年間、毎朝中岡交差点に立ち、鵜洋小学校や湘南学園の児童、生徒が安全に横断できるように登校指導をされてきた金子さん。

暑い日も寒い日も、また雨の日も子どもたちが通学する際は必ず信号機の下に立ち、子どもたちを笑顔で送り出し、旗振りのお母様方にもアドバイスをして下さいました。

鵜洋小学校のPTA図書室に残されている古い中岡交差点の登校指導記録ノートの随所に金子さんの名前が登場します。当時のお当番さんも年に1～2回の登校指導は不慣れなため、金子さんに指導を受けたり、助けられたりと心から感謝されていたことが書かれています。

早起きの子どもは7時半前に登校してきます。それに合わせて金子さんも白のYシャツに紺色のネクタイと緑色の帽子、白手袋をして中岡交差点に立っていました。

「おじさん、いま何時？」と子どもが度々聞くため、電柱に丸い掛け時計を掛け、手製の黄色い看板(車両通行止)を中岡交差点と鵜洋小学校の西角(旧青木文房具店前)に設置し、子どもたちの登校を見守って下さいました。

8時半のチャイムが鳴っても最後の子供が渡りきるまで待ち、その後も湘南学園や鵜沼幼稚園の園児が渡るまで登園指導を行い、9時になると看板を片付けて、自営業の金物店を開店するという毎日でした。

日頃は優しく、時には厳しく、正しい交通ルールを子どもだけではなく、地域住民や通行するドライバーにも啓蒙していました。

そんな金子さんも平成18年3月の終業式の日を最後に引退されましたが、その後も子どもたちを気にして時々、中岡交差点に来て様子を見たり、傷んだ看板を修繕されたりしていました。また、地域の防犯や交通安全のために手製の看板をあちこちの電柱や道路標識の支柱に括り付けてきました。

今年の夏休み、出し入れしなかった西側の看板にアリが巣食い、かなり傷んで釘が抜けたりしてきたため11月18日の朝に釘と金槌を持って直しに行きました。仮修繕はしたのもの来年には作り直さなくはいけないと思っていた矢先、金子さんの訃報が入りました。その18日の朝に倒れられ天に召されたとの事です。まさに虫の知らせでしょうか。

掛け時計が8時28分を刻むと信号待ちをしていた子どもがその場で足踏みをして、青になった瞬間に、「やべー、遅刻する！」と言い残し、金子さんの横を駆け抜けて行くシーンが思い起こされます。

2年ほど前、金子さんは黄色い看板の老朽化を気にして声を掛けてくれました。その時にお会いしたのが最後でした。登校指導のベテランからもっと多くをお聞きしたかったのですが、それはもう叶いません。

この度、ご自宅にお焼香に行った際、遺影の横に真新しい看板が立て掛けてありました。金子さんが登校指導を始めた切っ掛けは、近所の子供から「中岡交差点は怖いんだ、おじさん何とかしてくれる」という言葉からだったそうです。たったその一言が30年以上に渡る長い活動に繋がったのです。この度、奥様のご厚意で、形見となった真新しい看板を設置する事となりました。いつまでもこの看板は子どもたちを見守ってくれる事でしょう。今は亡き金子さん、心より感謝致します。 合掌

KFP鵜洋おやじパトロール隊 隊長 武井創

